

JERコンクリート 補改修協会

マッチングサイトを 情報交換・交流型に

JERコンクリート補改修協会は8月5日、東京ベイ有明ワシントンホテルで2026年度総会を開催した。

同協会は今年度、建設業界の人手不足対策として構築した全国ネットワーク「JERマッチングシステム」の登録者数増加に向けてサイトを再構築する。登録しづらい項目や依頼しにくい構成

を改め、新規会員でも使用しやすい交流型サイトに変更する。デモ施工会や工法勉強会などの有益情報を積極的に提供し、会員同士が情報交換できるシンプルで投稿しやすい環境を作る。

佐藤会長は冒頭のあいさつで「(老朽化対策では)非開削工法による管更生が主流になっていることから、今後は当工法

でも検討する。神戸市との共同研究では部分補修の工法を開発した。AIやドローンを用いた新しい防食技術や補修製品の開発に向けて、自治体等と一緒に活動していきたい」などと述べた。

.....

JERコンクリート 補改修協会管路部会

ジックボードVGI 法の優位点を明確に

マンホールを中心に非開削の管きょ更生を提案するJERコンクリート補改修協会管路部会は8

月5日、東京ベイ有明ワシントンホテルで2026年度総会を開催した。同協会今年度、下水道展や下水道管路管理技術施工展などに出席し、知名度の向上に努める。会員向けには「ジックボードVGI工法」の審査証明取得に伴う技術研修会を実施し、従来型との違いや留意点の確認および意見交換を行う。

井上敬介部会長は冒頭のあいさつで「国土強靱化年次計画2026の事業規模は約4兆1千億円、上下水道施設の耐災害性強化などが主要施策に位置付けられている。かつては数十年に一度といわれたレベル2の地震(震度7以上の大地震)が、阪神・淡路大震災以降は8回も起きるなど頻度が増しており、またいつ起きてもおかしくない。そうした中で当部会としてはマンホール更生による耐震性のさらなる向上を目指し、技術開発を進めていく」と述べた。



佐藤会長



井上部会長